



昭和35年のチリ地震津波の惨状
(中央町・山田交番付近)

いつ起こるか分からない自然災害 ご家庭での“備え”は万全ですか

災害への適切な対処が被害を最小限に抑える

地震や台風などの自然災害は、
▼津波▼火災▼土砂崩れ▼停電
▼交通まひ——など多くの事態
を巻き起こすことが考えられます。
しかもそれは、いつ、どこ
で発生するかさえも予測できま
せん。災害に適切に対処し、被
害を最小限に食い止めることが
できる行動力を身に付けること
が大切です。普段から自分が住
んでいる地域ではどのような災
害が考えられ、その場合どのよ
うに対処すればよいかなど、自
分の身を守るための方法を知っ
ておきたいものです。

▽避難行動の注意

- ・避難する前にもう一度火を確
かめて
- ・外出中の家族には連絡メモを
- ・避難は徒歩で、車は厳禁
- ・ヘルメットや防災ずきんなど
で頭を保護する
- ・子供やお年寄りの手はしっか

り握って
・各自が名前や身元が分かる名
札などを身に付ける

**話し合ってみませんか
家族の防災マニュアル**

防災活動の最小単位は家族で
す。年に一度は家族で非常時の
対応について話し合いを持ち、
いざというときに備えましょう。
家の危険な場所をチェック
家の内外をチェックし、大き

な家具は留め金で補強するなど、
危険な場所の補修をしましょう。
家族との連絡方法を決める

災害時は電話がつながりにく
くなります。家族が別々にいた
場合の連絡方法や落ち合う場所
を事前に決めておきましょう。
一人一人の役割分担の確認
ガスの元栓を閉める、電気の
ブレーカーを落とす、高齢者や
子供の保護など、誰が何を担当
するかを確認しておきましょう。

いざというときのため
備えておきたい

非常持出袋

危険が迫り避難しなければならない
とき、あなたは何を持ち出しますか。
次の例を参考に最小限の非常持出品を
用意し、燃えにくい素材のリュック
サックなどに入れておきましょう。

- ☐ 懐中電灯…できれば1人に1つ
- ☐ 携帯ラジオ…予備電池は多めに用意
- ☐ 非常食・水…食料はカンパンや缶詰
など火を通さなくても食べられる物
- ☐ 薬…応急医薬品に加え、持病の薬も
忘れずに
- ☐ ラップフィルム…止血や汚れた食器
にかぶせて使うことができます
- ☐ ヘルメット、防災ずきん、軍手
- ☐ そうそく、ライター
- ☐ 生活必需品…衣類やタオル、マスク、
ティッシュペーパー、紙おむつなど

あなたの避難場所 確認してください

- ◆大沢 ふるさとセンター、魚賀波間神社、南陽寺（大沢保育園）、袴田裏山、大沢小学校、大沢林道、切り通し、八幡宮
- ◆山田 山田北小学校、柳沢団地A・B・C棟、山田道路、お寺山（善慶寺）、後楽墓地、山田町第一保育所（龍昌寺）、旧町立図書館跡地（おぐら山）、町中央公民館、町中央コミュニティセンター、保健センター、山田八幡宮、旧山田病院前、山田南小学校、さくら幼稚園、児童公園、飯岡防災センター
- ◆山田・織笠 三本小松、伝作裏山、山田中学校北側線、町民グラウンド、山田中学校、山田体育館
- ◆織笠 織笠小学校、織笠保育園、織笠コミュニティセンター、跡浜裏山、館
- ◆船越 船越防災センター（船越支所）、船越保育園、船越小学校、B & G海洋センター、山の内生活改善センター
- ◆田の浜 八幡宮、壇の洞墓地、早川山、新宅地、瑞然寺、船越漁村センター、第2分団屯所
- ◆大浦 大浦漁村センター、大浦小学校、大浦保育園、霞露ヶ岳神社、秀全堂、林道大浦線、小谷鳥コミュニティセンター



いざというときに備え、皆さんで津波避難訓練にご参加ください（昨年と同訓練より）

9月5日は町総合防災訓練

津波避難訓練にご参加ください

早朝に大津波警報発令 速やかに高台へ避難を

町では、9月1日の「防災の日」にちなみ、毎年9月の第1日曜日に総合防災訓練を実施しています。本年は5日に下表の災害を想定して行われ、これに伴う訓練として▽津波避難訓練▽通信情報伝達訓練▽水門・門扉閉鎖訓練▽応急飲料水確保訓練▽応急食料炊き出しおよび非常食配給訓練▽救出救助（海難）

訓練▽流出油防除訓練——などを実施します。

町民の皆さんが対象となるのは津波避難訓練です。午前5時45分に訓練大津波警報と同時に避難命令が防災行政無線を通じて発令されますので、速やかに高台などの安全な場所へ避難してください。

山田魚市場前では海難救出救助訓練行います

津波避難訓練終了後の午前6

時45分からは山田魚市場前を会場に『津波により防波堤に衝突した漁船から火災が発生、負傷した乗組員が救助を待っている』という想定

で、海難救出救助訓練を実施します。釜石海上保安部などによる船舶火災消火訓練や航空自衛隊松島救難隊のヘリコプターによる負傷者救出救助訓練のほか、町内漁協関係者などによる船舶から流出した油の拡散を防ぐ流出油防除訓練など、本番さながらの訓練が展開されます。

また、荒川婦人防火クラブによる初期消火訓練のほか、航空自衛隊山田分屯基地による海水から作った飲料水の試飲コーナーも設けられます。町民皆さんの観覧をお願いします。

非常時に身を守る方法 普段から考えておこう

昨年の避難訓練への参加者は1568人。避難対象地区全体での参加率は16・2%で、依然として低いものとなっています。このような状況では、実際に津波が襲来したときの対応が心配されます。

本年2月28日に発生した南米チリの地震による津波では幸いにも人的被害は発生しませんでした。



▶想定1 9月5日午前5時半、宮城県沖およそ200kmを震源とするマグニチュード8.0、震度6（弱）の大地震が発生した。この地震により、発生30分後に波高4～6mの津波が襲来し、大規模な災害

発生の恐れが強い。地震により送電系統が故障し停電となり、テレビ、ラジオ、電話からの情報確保が困難となる。民家では、てんぷら鍋に火が入り、また飛散した油に引火して延焼拡大する恐れがある。

▶想定2 津波襲来後、係留中の船から油が流出し、養殖施設に多大な被害発生の恐れがある。

したが、いつまた地震が発生し、津波が襲来するかわかりません。訓練は、いざというときに適切な対処できる行動力を身に付けるためのものです。災害からいかにして身を守るか——。それはわたしたち一人一人が、普段からどのような備えを行っておくにかかっています。家族みんなで訓練に参加して避難方法を確認したり、津波を知らない世代にその恐ろしさを伝えたりするなど、家庭で防災について話し合っておきましょう。